

第5回 国道137号新たな御坂トンネル整備検討会議事概要

1. 日時

令和7年2月26日（水） 15:00～17:00

2. 場所

山梨県立図書館1F イベントスペース西面

3. 委員

◎砂金伸治 東京都立大学 都市環境学部 都市基盤環境学科 教授
大島洋志 一般社団法人 日本応用地質学会 名誉会員
真下英人 一般社団法人 日本建設機械施工協会 施工技術総合研究所 所長
村上幸利 山梨大学 名誉教授
立川 学 山梨県 県土整備部 技監
佐藤直規 笛吹市 建設部 部長
流石国男 富士河口湖町 都市整備課 課長
◎は座長

4. 参加者

オブザーバー

有上 悟 国土交通省 関東地方整備局 甲府河川国道事務所 副所長
事務局
山梨県 県土整備部 道路整備課

第5回 国道137号新たな御坂トンネル整備検討会議事概要

5. 議事

1. 複数の断層破碎帯との交差・高圧・多量湧水の発生
2. 大土被り区間への対応
3. 水文・地質調査の実施方針・優先度等
4. 今後の予定

6. 議事概要

- ・避難坑位置については、周辺地形・比流量分布による推定等から西側からの湧水量が多くなることが想定されるため、本坑施工時の水抜き効果が期待できる本坑の西側に決定する。
(本坑・避難坑位置の確定)
- ・終点側（笛吹市側）坑口部には軟弱なローム層や崖錐堆積物等が厚く分布しており、川側で支持地盤が深くなることが想定されることから詳細設計時に留意すること。
- ・新設トンネル施工時の突発湧水リスクについては、100m程度上部にある既設トンネルによる水抜き効果による地下水位の低下が確認されていることから、既設トンネル施工時に比較して想定されないが、山全体の地下水が多いことから施工時には留意すること。
- ・大土被り区間の物性を把握できていない地質については、既設トンネルを活用した削孔等により地質状況等の確認を行うことが望ましい。
- ・今後の地質調査方針として、残り2箇所ボーリング調査、地表地質踏査、既設トンネル内からの削孔により、地質状況・地質境界・自然由来重金属の溶出・酸性土発生の可能性を把握することに努めるのがよい。
- ・今までの調査では自然由来重金属の溶出は確認されていないが、酸性化可能性試験結果が基準値を超

過している箇所もあり、酸性水発生による重金属溶出促進の懸念があることから対応に留意すること。今後の地質調査結果や他事例も踏まえた上で、現場の作業や費用面の過度な負担にならないような簡易な要対策土判定フローを策定することが望ましい。